

令和 3 年 6 月 16 日現在

機関番号：12614

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02540

研究課題名(和文) ホーソーンのトランスナショナリティ

研究課題名(英文) Nathaniel Hawthorne's Transnationality

研究代表者

大野 美砂 (Ono, Misa)

東京海洋大学・学術研究院・准教授

研究者番号：30337711

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ホーソーンの文学的想像力が、アフリカや中南米を含めた広いトランスナショナルな影響関係の中で形成されたことを明らかにして、これまで主にヨーロッパとアメリカのみに焦点を当ててきたホーソーンのトランスナショナリティに関する研究を発展させた。具体的には、19世紀前半に大西洋世界でどのような交流の実態があったのかを把握したうえでホーソーンの伝記や作品を見直し、彼の生涯には、従来考えられていたよりずっと多くのアフリカや中南米との接点があったことを指摘した。また、ホーソーンの広いトランスナショナルな交流や知識が、彼の作品の中に書き込まれていることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は第一に、『アフリカ巡航日誌』や『ダートムーア老囚人の手記』など、従来のホーソーン研究では対象から抜け落ちてきた資料を分析し、その重要性を指摘した点である。これらの資料によって、ホーソーンが奴隷貿易やアメリカ植民協会の活動、19世紀半ばのアフリカ大西洋岸の状況、商船や海軍の合法的活動と奴隷商人や海賊などの非合法的動きが混在していた当時の大西洋の実態を詳細に知っていたことがわかり、ホーソーンの伝記の中のこれまで知られていなかった側面を発掘することができた。また、作品の分析において、そのような伝記的側面の作品への影響を考察し、ホーソーン作品の新たな面を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study expanded previous studies on Nathaniel Hawthorne's transnationalism, which were primarily focused on Europe and America, by showing that his literary imagination was shaped by a wide range of transnational influences, including those from Africa and Central and South America. Specifically, I examined Hawthorne's biography and literary works, using historical materials about the Atlantic world during the first half of the nineteenth century, and have pointed out that he had had significantly more contacts with Africa and Central and South America than previously thought. I have also revealed that Hawthorne's broad transnational interactions and knowledge are written into his works.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：ナサニエル・ホーソーン トランスナショナル 『アフリカ巡航日誌』 『ダートムーア老囚人の手記』 『おじいさんの椅子の全歴史』 「主として戦争問題について」

1. 研究開始当初の背景

近年、トランスナショナルな視座からアメリカ文学を捉え直す研究が次々と出される中で、ホーソーンについても、より広い地理的枠組みの中で作家や作品を分析する研究が多数出されてきた。例えば、1850年代にイギリスで領事をした頃のホーソーンの活動に焦点を当てた論文 Robert Milder の “In the Belly of the Beast: Hawthorne in England” (*The New England Quarterly*, 2011)、フランス、イタリアなどのヨーロッパへの旅行がホーソーンやその作品に与えた影響を解明した論文 Joshua Parker の “War and Union in Little America: The Space of Hawthorne’s Rome” (*Nathaniel Hawthorne Review*, 2014) は、ホーソーンの世界を越えたトランスナショナルな活躍が彼の作品を形成したことを明らかにしている。また、Lawrence Buell の “Hawthorne and the Problem of ‘American’ Fiction: The Example of *The Scarlet Letter*” (*Hawthorne and the Real*, 2005) や Laura Doyle の “‘A’ for Atlantic: The Colonizing Force of Hawthorne’s *The Scarlet Letter*” (*American Literature*, 2007) は、ヨーロッパとアメリカの思想的相互影響関係がホーソーンの世界の中でどのように形象化されたかを論じている。

しかしこれらの研究は、ヨーロッパとアメリカのみを対象としていて、ホーソーンの世界ソフィアのキューバでの経験に関する論考が国内外でいくつか出されている(例えば、高尾直知「ホーソーンとキューバ 『ラパチーニの娘』、『キューバ・ジャーナル』、『ファニタ』、『モンロー・ドクトリンの半球分割』、2016年)を除いて、アフリカや中南米を含めたより広い視点からホーソーンの世界トランスナショナル性を考察する研究はほとんどなかった。ホーソーンの世界における他者の表象を分析した研究(例えば、福岡和子『「他者」で読むアメリカン・ルネサンスメルヴィル・ホーソーン・ポウ・ストウ』、2007年) 黒人が登場することが非常に少ないホーソーンの世界の中に奴隷制や人種の問題への暗示が見られることを指摘する研究(例えば、Deborah L. Madsen, “A for Abolition”: Hawthorne’s Bond-Servant and the Shadow of Slavery,” *Journal of American Studies*, 1991) は多数ある。しかしそれらは、トランスナショナルな移動や交流という観点から作品を分析したものではなかった。

研究代表者は、2013年度から2015年度の基盤研究(C)「アメリカン・ルネサンス期の小説と大西洋奴隷貿易」で、大西洋における奴隷貿易がホーソーン、ストウ、メルヴィルの作品に及ぼした影響を検討した。その中でホーソーンについては、19世紀前半頃のセイラムの国際貿易港としての活動に関する資料、船乗りになったホーソーンの世界の先祖の航海日誌、ホーソーンの世界の伝記などを分析することで、ホーソーンが奴隷貿易について詳しく知っていたことを証明し、それが「税関」や『緋文字』の船や船乗り、商人の描写に影響を及ぼしたことを明らかにした。ホーソーンが作品やジャーナル、手紙などの中でアフリカや中南米に言及することは非常に少ないが、研究の過程で、彼が編集に携わった『アフリカ巡航日誌』や『ダートムア老囚人の手記』といった従来研究対象から抜け落ちてきた資料に、ホーソーンとアフリカや中南米との関係を示唆するものを見つけた。また、「税関」や『緋文字』以外のホーソーンの世界の作品にも、直接的あるいは比喩的なレベルで、アフリカや中南米との関係を示す描写があると感じた。ストウについては、ハイチ革命やアメリカ植民協会に関する資料を用いて、ストウの世界の作品と奴隷貿易の関係を考察したが、歴史上唯一成功した黒人主体の革命であるハイチ革命やその頃の中南米の動きが19世紀前半のアメリカに与えた衝撃は大きく、それらがホーソーンの世界の文学的想像力にも影響していると考えようになった。

そこで本研究では、ヨーロッパとアメリカを中心にしたホーソーンの世界トランスナショナル性に関する過去の研究の成果を踏まえたうえで、作品における他者の表象などをめぐる研究の成果も生かしながら、そこにアフリカや中南米という視点を導入することで、2013年度から2015年度の基盤研究で進めた研究の一部を、ホーソーンに焦点を絞って発展させることを目的とした。

2. 研究の目的

本研究は、ホーソーンの世界の文学的想像力が、ヨーロッパだけでなくアフリカや中南米を含むトランスナショナルな影響関係や交流の中で形成されたことを明らかにしようとした。ヨーロッパとアメリカの関係という観点からホーソーンやその作品を分析した研究は、すでに多数出されてきた。一方で、ホーソーンの世界の伝記の中にはアフリカや中南米との接点を示す側面があり、作品には、直接的あるいは比喩的なレベルで、それらの影響を読み取れる描写があるにもかかわらず従来のホーソーン研究において、アフリカや中南米という場所は等閑視されてきた。本研究では、アフリカや中南米を視座に入れて作品を再考し、これまでヨーロッパとアメリカのみに焦点を当ててきたホーソーンの世界トランスナショナル性に関する研究を発展させることを目的とした。具体的には、19世紀前半のアメリカにとって、アフリカや中南米がどのような意味をもつ場所だったのか、どのような交流の実態があったのかを把握したうえでホーソーンの世界の伝記を見直し、彼の生涯には、従来考えられていたよりずっと多くのアフリカや中南米との接点があったことを明らかにする。上記で明らかになった点を踏まえてホーソーンの世界の作品を分析し、彼の作品にはアフリカや中南米という場所が書き込まれていることを明らかにする。上記で明ら

かにしたことが、ホーソンの文学にとってどのような意味をもつのかを考察し、本研究の結果としてまとめる。この3点を目的とした。

3. 研究の方法

(1) 文献を使つての研究

トランスナショナル研究に関する理論書、Paul Giles の *The Global Remapping of American Literature* (2011) や Donald E. Pease の “Introduction: Re-Mapping the Transnational Turn” (*Re-Framing the Transnational Turn in American Studies*, 2011) などを読み、研究の方法やトランスナショナル研究で重要な用語や概念を確認した。

ヨーロッパとアメリカの関係を中心にした、ホーソンのトランスナショナルリティに関する先行研究を読み、これまでの研究の成果を把握した。

19世紀前半のアメリカにおいて、アフリカや中南米が政治的・経済的にどのような意味をもつ場所だったのかを理解するために、奴隷貿易やアメリカ植民協会を扱う研究書、奴隷船や商船、アフリカで奴隷貿易の取り締まりをした海軍の活動を記録した資料、ハイチ革命や中南米とアメリカの関係を論じた研究書などを精査した。

上記で集めた資料も参考にしながらホーソンの作品を分析し、作品とアフリカや中南米を含むトランスナショナルな関係について考察した。

中央大学の高尾直知先生、京都産業大学の中西佳世子先生と共に、『アフリカ巡航日誌』の翻訳・分析をした。本書は、ホーソンの友人ホレーショ・ブリッジが1840年代にアフリカ巡航の任務に従事した記録をホーソンが編集し、出版したものである。

(2) 資料収集・情報交換

アメリカでの資料収集については、2018年度にボストンを訪問し、ハーヴァード大学図書館やボストン公立図書館、マサチューセッツ歴史協会、マサチューセッツ州ローリーに移転したピーボディ・エセックス博物館のフィリップス図書館を訪問し、本研究に重要な資料を多数入手することができた。

国内では、毎年5月には日本ナサニエル・ホーソン協会全国大会と日本英文学会、8月にはエコクリティシズム研究学会、10月には日本アメリカ文学会全国大会に参加し、研究成果を発表したり他の研究者の発表を聞いたりしたほか、これらの学会の支部例会にも参加し、他の研究者との交流の中で、本研究に関する貴重な情報を得ることができた。

4. 研究成果

(1) 2017年度

京都産業大学の中西佳世子先生と共に、『アフリカ巡航日誌』を翻訳する作業を進めた。翻訳の過程で、アメリカ植民協会の活動、19世紀半ばのリベリアの様子、当時のアフリカとアメリカの関係について多くの情報を得ることができた。

19世紀の大西洋に関する第一次資料や研究書を使って、商船や海軍の活動と奴隷商人や海賊などの非合法の動きの両方が互いに領域侵犯を繰り返しながら混在していた実態を調べる中で、あるセイラムの名士が1812年の戦争中に私掠船で航海をした経験を記録し、ホーソンが編集して出版した『ダートムーア老囚人の手記』を見つけた。この手記と『アフリカ巡航日誌』がホーソンの作品に与えた影響を考察した論文「ホーソンが編集した二つの航海記の海軍言説と『緋文字』」が、共著に掲載されることになった。

本研究を開始する前から、奴隷制度がホーソンの作品の中でどのように描かれているのかを理解する目的で、ホーソンの作品を分析する作業を始めていたが、その研究の成果の一つが、論文『『ナショナルな風景』の解体——主として戦争問題について』をめぐって」にまとめられ、それが共著『エコクリティシズムの波を超えて』に掲載された。

日本ナサニエル・ホーソン協会関西支部例会で、ホーソンが子どもを対象にマサチューセッツの歴史を書いた『おじいさんの椅子の全歴史』について、人種に関する表象を分析する内容の発表をした。

(2) 2018年度

『アフリカ巡航日誌』の翻訳については、すべての章の試訳を検討することができたが、予想していた以上に難解な作品で、歴史上の事実の確認などにも時間がかかった。

論文「ホーソンが編集した二つの航海記の海軍言説と『緋文字』」が、共著『海洋国家アメリカの文学的想像力——海軍言説とアンテペラムの作家たち』に収録され、出版された。これは、ホーソンが『ダートムーア老囚人の手記』と『アフリカ巡航日誌』を編集する過程で、19世紀前半の大西洋やカリブ海の状況を知り、それが『緋文字』の船乗りや海の描写に大きく影響していることを示した論文である。

日本ナサニエル・ホーソン協会東京支部が企画した、ケンブリッジ・コンパニオンのアメリカン・ルネサンスに関する論集を研究する読書会で司会と発表を行い、発表ではホーソンのトランスナショナルリティに関する章を扱った。また同学会の東京支部例会で、ホーソンの初期の短編「白髪の子」に関する発表を行った。

アメリカ文学におけるホワイトネスの問題に関する論文集の書評が、日本英文学会の会誌

『英文学研究』に、ケンブリッジ・コンパニオンのアメリカン・ルネサンス文学に関する論文集の書評が、日本ナサニエル・ホーソン協会の会誌『フォーラム』に掲載された。

(3) 2019 年度

『アフリカ巡航日誌』翻訳出版については、各章の試訳原稿の見直しを行い、注や解説の執筆を始めた。

トランスナショナルなエコクリティシズムの実践に関するスコット・スロヴィックの論考「経験主義、情報管理、環境人文学」の翻訳が共著『トランスアトランティック・エコロジー ロマン主義を語り直す』に掲載され、出版された。

エコクリティシズム研究学会で企画された、*Transatlantic Literary Ecologies: Nature and Culture in the Nineteenth-Century Anglophone Atlantic World* (2016) に関するワークショップに参加し、ホーソンの『緋文字』と『大理石の牧神』を論じる章を担当した。また、日本ナサニエル・ホーソン協会東京支部会が企画した、*Nathaniel Hawthorne in Context* (2018) を論じる読書会で司会と発表を行った。

(4) 2020 年度

『アフリカ巡航日誌』翻訳出版については、予想していたより文章が難解で、19 世紀の西アフリカに関する情報の収集にも時間がかかり、2019 年度までに具体的な出版の調整をする段階に至らなかったため、本研究の期間を 1 年延長していただいた。2020 年の年末からは、中央大学の高尾直知先生にも翻訳の企画に入ってもらえることになり、各章の翻訳の方法や事実関係の確認において未解決だった部分の多くが解決した。現在、2021 年度中の出版を目指して、最終調整をしている。

初期アメリカ学会で、ホーソンの『おじいさんの椅子の全歴史』を分析した研究の報告をした。

初期アメリカ学会での発表をもとにした論文「ナサニエル・ホーソンの『おじいさんの椅子の全歴史』における他者への共感」が、『アメリカ・カナダ研究』第 38 号に掲載された。

Transatlantic Literary Ecologies: Nature and Culture in the Nineteenth-Century Anglophone Atlantic World (2016) を分析し、紹介した報告が『エコクリティシズム・レビュー』第 13 号に掲載された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 大野美砂	4. 巻 95
2. 論文標題 書評「安河内英光・田部井孝次編著 『ホワイトネスとアメリカ文学』」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『英文学研究』（日本英文学会）	6. 最初と最後の頁 136-140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20759/elsjp.95.0_136	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大野美砂	4. 巻 24
2. 論文標題 書評「Christopher N. Phillips, editor, The Cambridge Companion to the Literature of the American Renaissance」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『フォーラム』（日本ナサニエル・ホーソーン協会）	6. 最初と最後の頁 87-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大野美砂	4. 巻 38
2. 論文標題 ナサニエル・ホーソーンの『おじいさんの椅子の全歴史』における他者への共感	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『アメリカ・カナダ研究』	6. 最初と最後の頁 27-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大野美砂
2. 発表標題 「Transatlantic Literary Ecologies を読む」
3. 学会等名 第 32 回エコクリティシズム研究学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大野美砂
2. 発表標題 「Nathaniel Hawthorne in Contextをめぐって」
3. 学会等名 日本ナサニエル・ホーソン協会東京支部例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大野美砂
2. 発表標題 「The Cambridge Companion to the Literature of the American Renaissanceをめぐって」
3. 学会等名 日本ナサニエル・ホーソン協会東京支部例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大野美砂
2. 発表標題 「作品研究 "The Gray Champion"」
3. 学会等名 日本ナサニエル・ホーソン協会東京支部例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大野美砂
2. 発表標題 『おじいさんの椅子の全歴史』における他者と共感
3. 学会等名 日本ナサニエル・ホーソン協会 関西支部例会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 スコット・スロヴィック著、大野美砂翻訳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 320ページ (291 - 302ページを執筆)
3. 書名 『トランスアトランティック・エコロジー ロマン主義と語り直す』(スコット・スロヴィック著「経験主義、情報管理、環境人文学」の翻訳)	

1. 著者名 大野美砂	4. 発行年 2018年
2. 出版社 開文社出版	5. 総ページ数 336ページ (133 - 157ページを執筆)
3. 書名 『海洋国家アメリカの文学的想像力』(論文「ホーソンが編集した二つの航海記の海軍言説と『緋文字』」を執筆)	

1. 著者名 大野 美砂	4. 発行年 2017年
2. 出版社 音羽書房鶴見書店	5. 総ページ数 436 (67-80)
3. 書名 『エコクリティシズムの波を超えて 人新世の地球を生きる』(論文「「ナショナルな風景」の解体「主として戦争問題について」をめぐって」を執筆)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------